

事業計画及び

成長可能性に関する説明

2023年5月31日

株式会社免疫生物研究所

(証券コード: 4570)

今期更新箇所は、赤字で記載しています。

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

企業理念

生物の生命維持に不可欠である免疫機構「抗体」について研鑽し、人類が病気から安全に免れるような医薬品や診断薬を提供いたします。

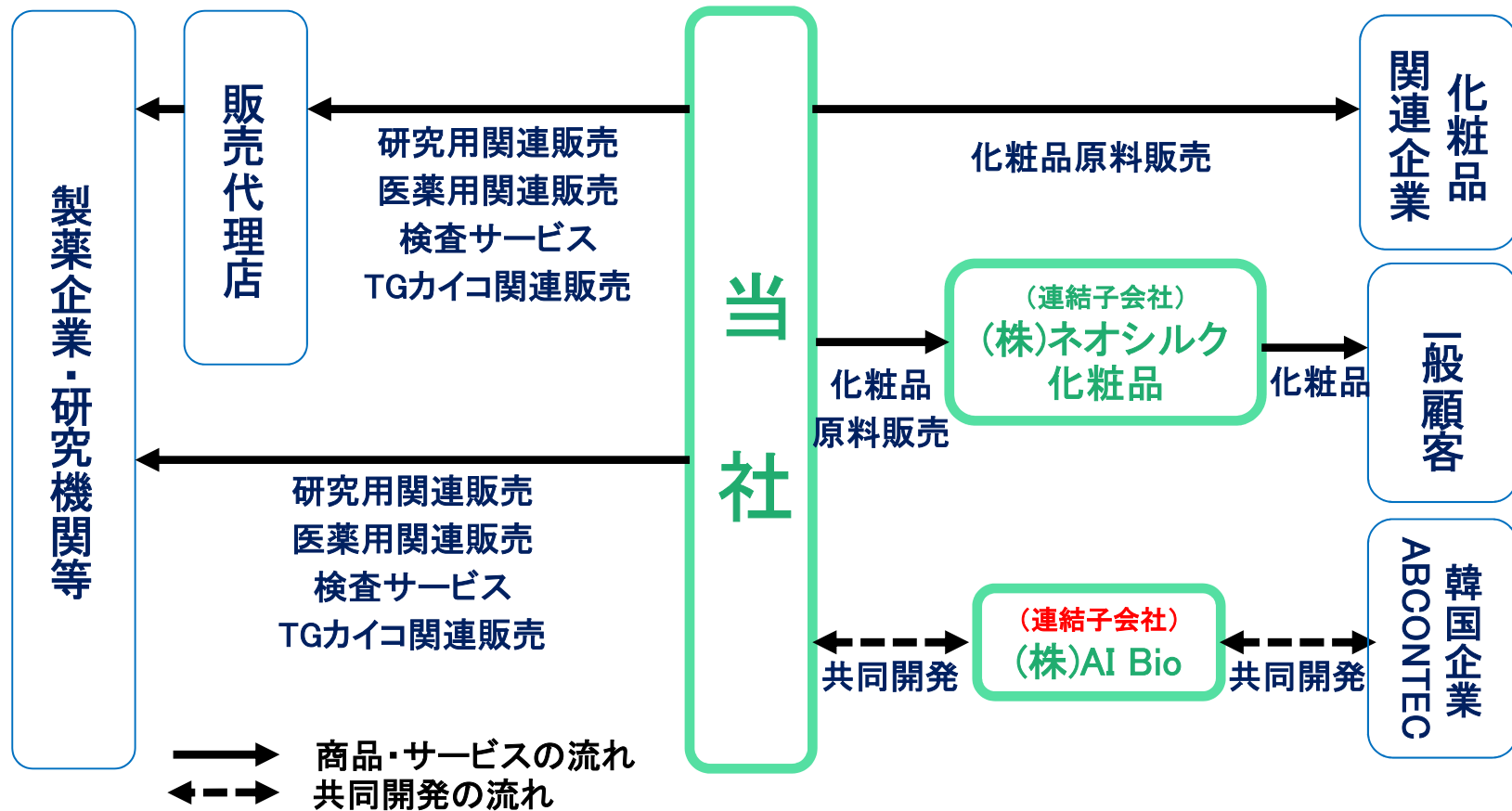
特に、がん、自己免疫疾患、脳・神経関連疾患などの難病にかかわるタンパク質に対する抗体の開発を追求し、医薬、診断薬、研究用試薬として供給してまいります。そして、世界で難病に苦しむ人々が1日も早く病気を克服し明るく豊かな暮らしを営めるように貢献いたします。

会社名	株式会社免疫生物研究所
設立日	1982年9月9日
代表者	清藤 勉
本社住所	群馬県藤岡市中1091番地1
資本金	3,029百万円 (発行済み株式数:9,314,590株)
従業員数	59名(前期比3名減)
役員数	取締役6名 監査役3名 (社外2名) (社外3名)
子会社	株式会社ネオシルク化粧品 株式会社AI Bio

※株式会社CUREDは、2023年3月期第4四半期において、持分法適用会社から除外されました。

※株式会社AI Bioは、2023年3月期第4四半期において、連結子会社となりました。

当社グループの事業概要



※株式会社CUREDは、2023年3月期第4四半期において、持分法適用会社から除外されました。

※株式会社AI Bioは、2023年3月期第4四半期において、連結子会社となりました。

当社グループの事業セグメント

セグメント	事業内容
抗体関連事業 (IBL、AI Bio)	<ul style="list-style-type: none"> ◆研究用試薬の開発・製造・販売 ◆体外診断用医薬品の開発・製造・販売 ◆医薬品原薬の開発・導出 ◆リポタンパク質、脂質プロファイル解析サービス ◆研究検査、HPLC測定項目の受託測定 ◆カイコ繭による抗体やタンパク質の生産・販売
化粧品関連事業 (IBL、NSC)	<ul style="list-style-type: none"> ◆カイコ繭によるネオシルク®-ヒト型コラーゲンの生産・販売 ◆ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品の製造・販売

※遺伝子組換えカイコ開発事業は、抗体関連事業へ統合されました。

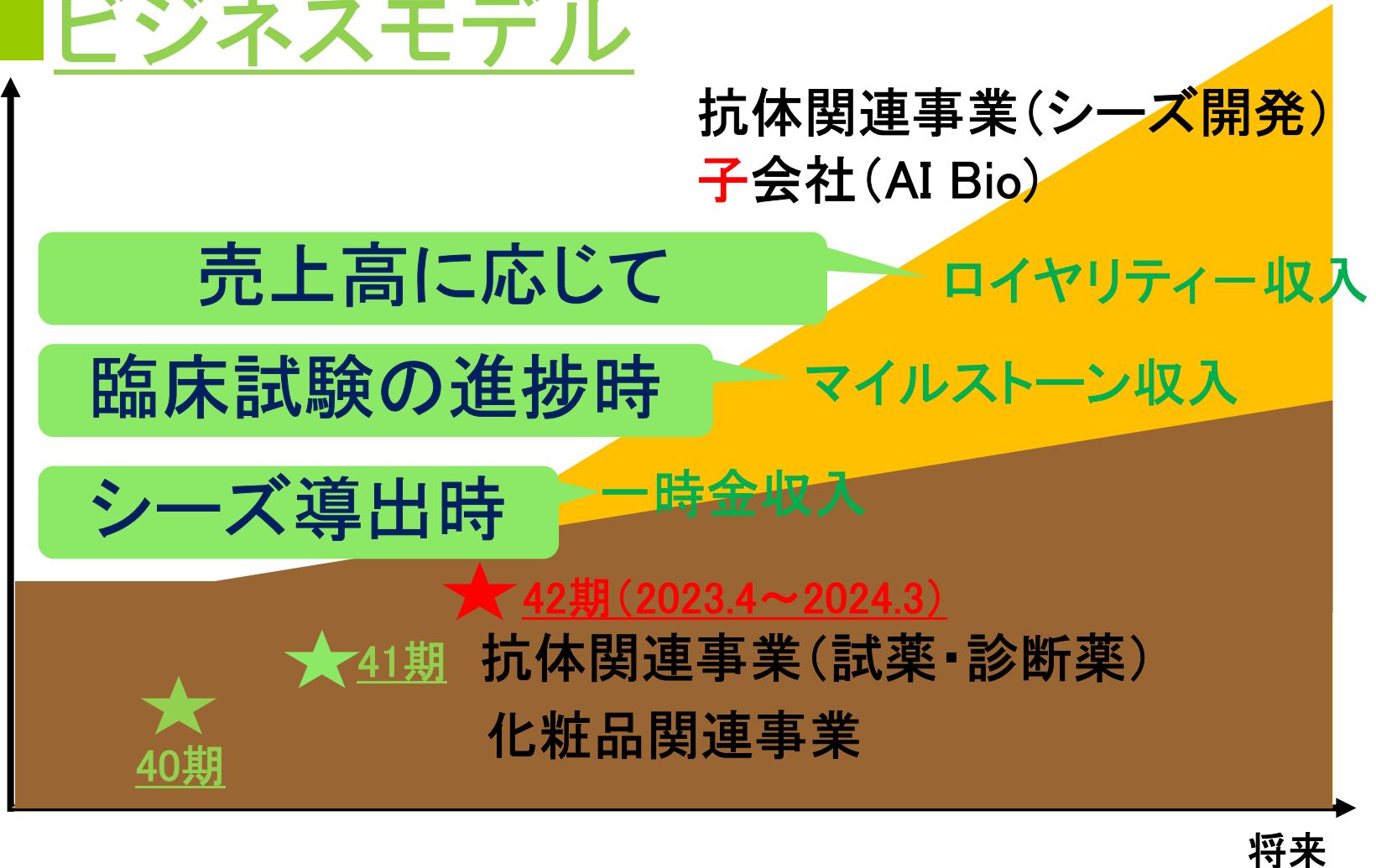
IBL:株式会社免疫生物研究所 NSC:株式会社ネオシルク化粧品、

AI Bio:株式会社AI Bio

※株式会社CUREDは、2023年3月期第4四半期において、持分法適用会社から除外されました。

ビジネスモデル

企業価値



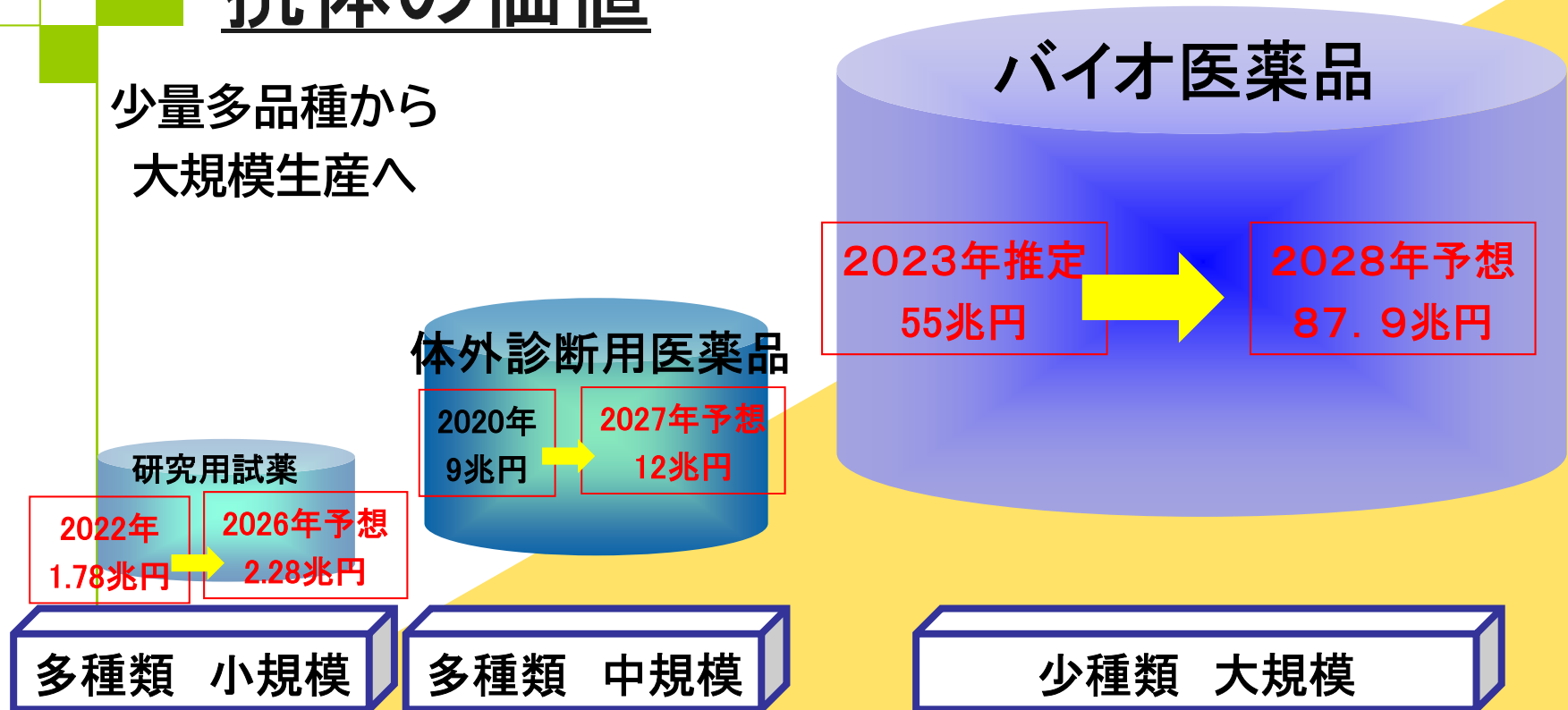
※株式会社CUREDは、2023年3月期第4四半期において、持分法適用会社から除外されました。

IBL 目次

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

抗体の価値

少量多品種から
大規模生産へ



診断薬から医薬品として利用されるにつれて付加価値が高まります

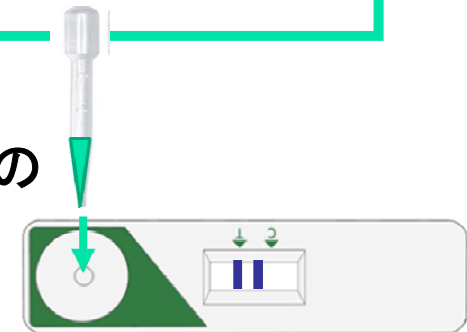
出所: 研究用試薬: 株式会社グローバルインフォメーション 研究用抗体・試薬の世界市場レポート 2023年参考 1\$ = 135円で当社試算
 体外診断用医薬品: 株式会社グローバルインフォメーション 「体外診断 (IVD) 市場 - COVID-19の影響と世界市場の分析: 2027年までの予測」参考 1\$ = 135円で当社試算
 医薬品: 株式会社グローバルインフォメーション「バイオ医薬品市場- 成長、動向、COVID-19の影響、予測(2023年~2028年)」参考 1\$ = 135円で当社試算

会社の基盤技術：抗体

抗体とは体の中で作られるタンパク質で、体内に侵入したウイルスなどに結合し、排除する働き、いわゆる免疫、を担っています。抗体の産業利用を通して社会に貢献してまいります！

○ 様々な物質(抗原)を識別し、結合する性質
→抗原(タンパク質など)の検出・分離・精製などの研究用試薬、診断薬として利用。

例)インフルエンザウイルス抗原検査用キット



○ がん細胞を殺傷したり、病因になる物質を中和する能力
→抗体自身を治療薬として用いる、抗体医薬品の開発。

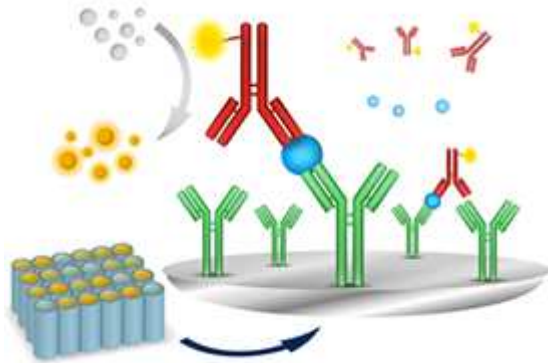
例)乳がん、大腸がん、関節リュウマチなどの治療薬



当社製品は、ニッチ製品で他社との差別化を図っているため、競合環境については、特段の経営リスクとしてあつかっておりません

当社は1982年(昭和57年)以来40年、5,000種類以上の抗原に対して抗体を作製してきました。

この間に抗体作製のノウハウが蓄積され、当社のコア技術として確立されております。



開発・製造・販売したELISAキット
100種類以上

アルツハイマー病関連、
メタボリックシンドローム関連、
がん関連
自己免疫疾患関連、など



特注抗体及びELISA系の作製など
受託サービスも提供しております。

ISO 13485に基づいた厳格な品質管理

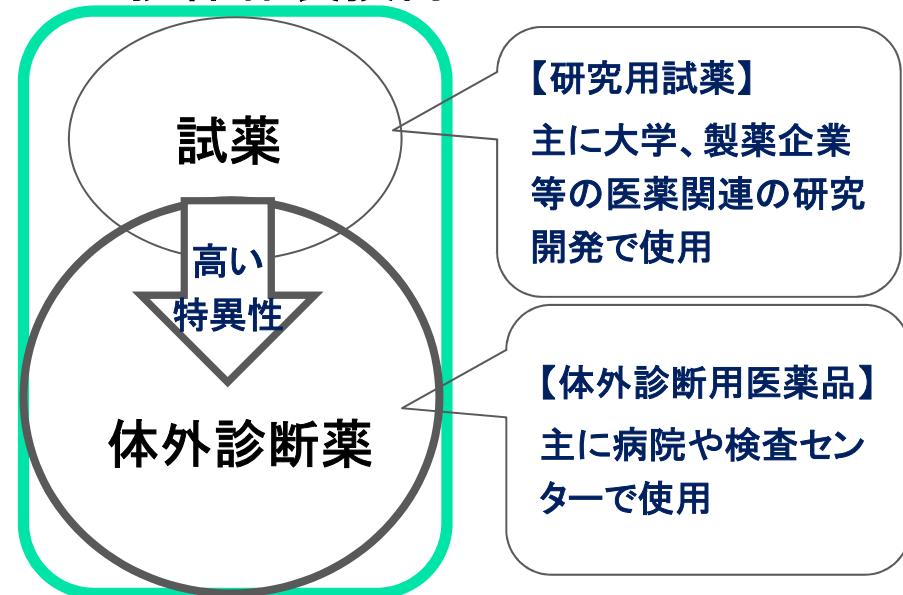
体外診断用医薬品の原料抗体をグローバルに供給。

自社製品の体外診断用医薬品としての承認申請・製造販売へ展開。

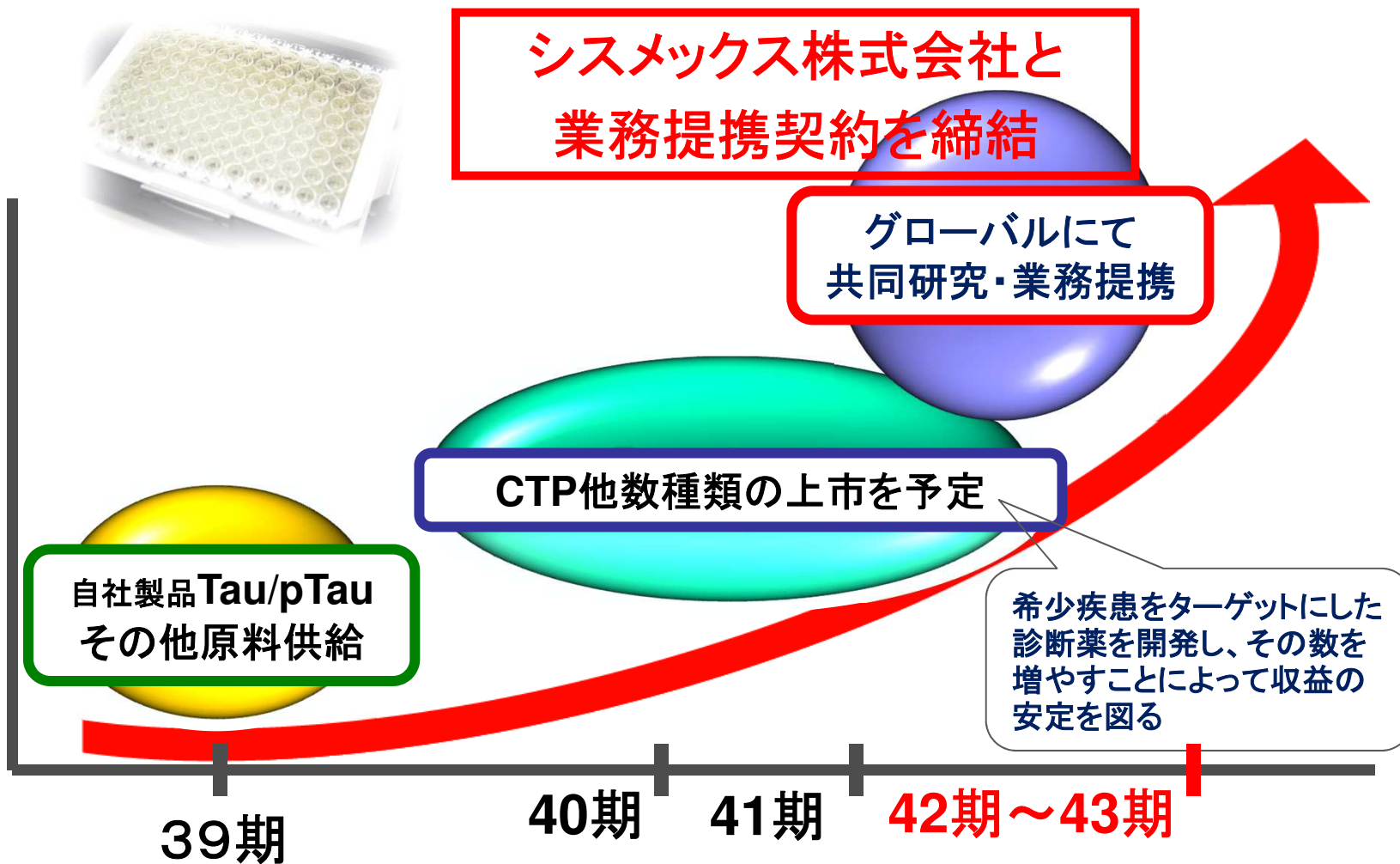
体外診断用医薬品への取り組み

試薬事業の領域は、非常に流動的であり、競争が激しいグローバル社会において、安定した収益を生み出すことが困難な領域となっております。安定した収益を生み出すためには、体外診断用医薬品の領域の製品化が必要であると認識し、体外診断用医薬品の研究開発に注力してまいります。

IBLの抗体作製技術



成長戦略



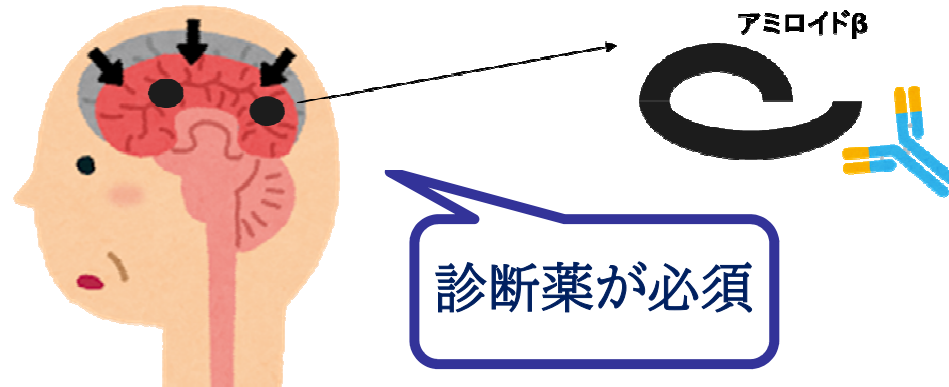
開発中の主なテーマと進捗状況

標的分子	CTP(Cochlin-Tomo-Protein)	グルカゴン	Titin-N7フラグメント	赤痢アメーバ	CTP(Cochlin-Tomo-Protein) イムノクロマト法
上市予定	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2024年3月期	未定
対象疾患	外リンパ瘻	血糖調節因子	神経筋疾患	赤痢アメーバ症	外リンパ瘻
申請区分	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅠ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)
共同研究先	埼玉医科大学 試薬販売業者	群馬大学	神戸大学 昭和大学	海外企業	埼玉医科大学
前回進捗	保険収載後 販売開始予定	2024年3月期販 売承認申請予定 研究開発中	2025年3月期販 売承認申請予定 (認定試薬として 販売を開始)	2023年3月期販 売承認申請予定 研究開発中	研究開発中 イムノクロマト法
今回進捗	2022年7月1日付 で、保険収載され 販売を開始	2024年3月期販 売承認申請予定 準備中	神経筋疾患診断 薬をめざし、認定 試薬として販売を 開始	2024年3月期上期 に体外診断用医 薬品製造販売承 認申請予定	研究開発中 イムノクロマト法
IBLの役割	・試薬開発 ・受託製造	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請	・試薬開発 ・受託製造

上記の他に、SFTS関連(p17参照)、GIST関連(p18参照)の診断用医薬品原料の開発を検討しております。

当社のアミロイドβに対する各種の抗体は、数多くの論文で採用され、世界中の研究者が使用しております。

アルツハイマー病に対する抗体医薬が米国FDAで承認

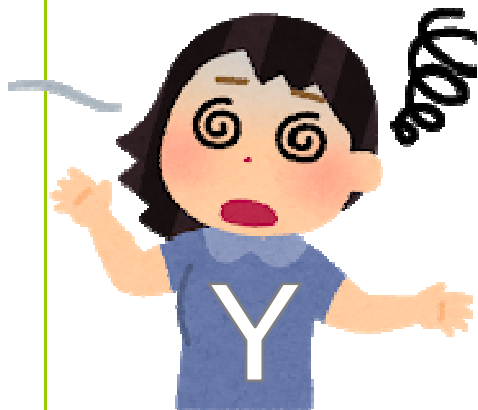


米製薬企業バイオジェンと日本のエーザイが共同開発するアルツハイマー治療薬「アデュカヌマブ」が、アルツハイマー病に対する抗体医薬として米国FDAで承認されたことにより、アルツハイマー病に対する早期段階の診断薬が必要となります。

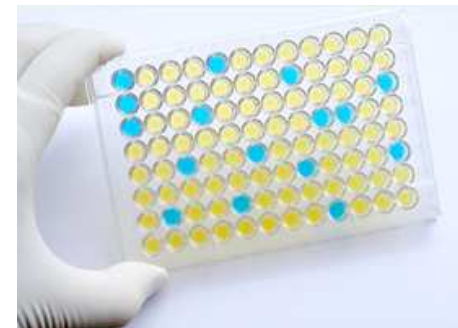
当社は、現在所有するアミロイドβ関連の抗体群を活用し、**国内外へ診断薬原料として展開してまいります。**

体外診断薬開発の一例

中耳洗浄液中のCTP（Cochlin-Tomo-Protein）
測定キットによる外リンパ瘻の診断



中耳洗浄液



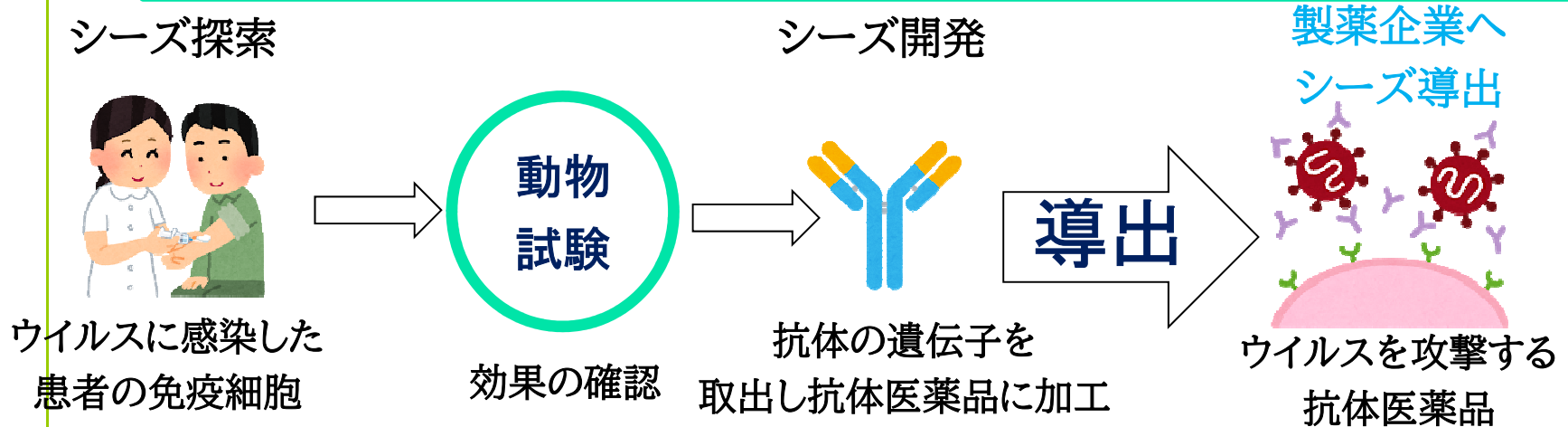
中耳洗浄液中の外リンパ瘻特異的蛋白CTPを検出
（CTP特異的抗体を使用）

外リンパが内耳から中耳へ漏出することによって、内耳の生理機能が傷害される疾患を外リンパ瘻と呼んでいます。

外リンパ瘻は難聴，耳鳴り，めまい，平衡障害などさまざまな症状を呈します。

外リンパ瘻の診断
（症状だけでは分からない病気の診断、診断の補助をします）

近年、がんを始め、さまざまな疾病の治療に抗体医薬が利用されるようになってまいりました。抗体の高い特異性を利用して標的細胞などを狙い撃ちできるため、従来の治療法とは異なり副作用が少ないとされており、抗体作製に関わる技術と経験を基に、将来の医薬に役立つシーズを見出し、ライセンスビジネスに積極的に取り組んでおります。



当社は、長期間におよぶ医薬品シーズの研究開発において、開発コストを最小限に抑え、動物試験における効果の確認が認められたシーズの導出を目指してまいります。

財務基盤の安定化

当社では、抗体作製技術を基盤として、治療用医薬品に適した抗体の創製に取り組んでおります。治療用医薬品開発においては、製薬企業各社がパイプラインを充実させるために医薬シーズに係る権利の譲渡又は許諾を受ける活動を積極的に展開していることを受けて、当社の人的資源と効率を鑑み、創薬ターゲットの探索及びそのターゲットに対する各種抗体の作製とそれらの抗体の薬効評価に特化しております。

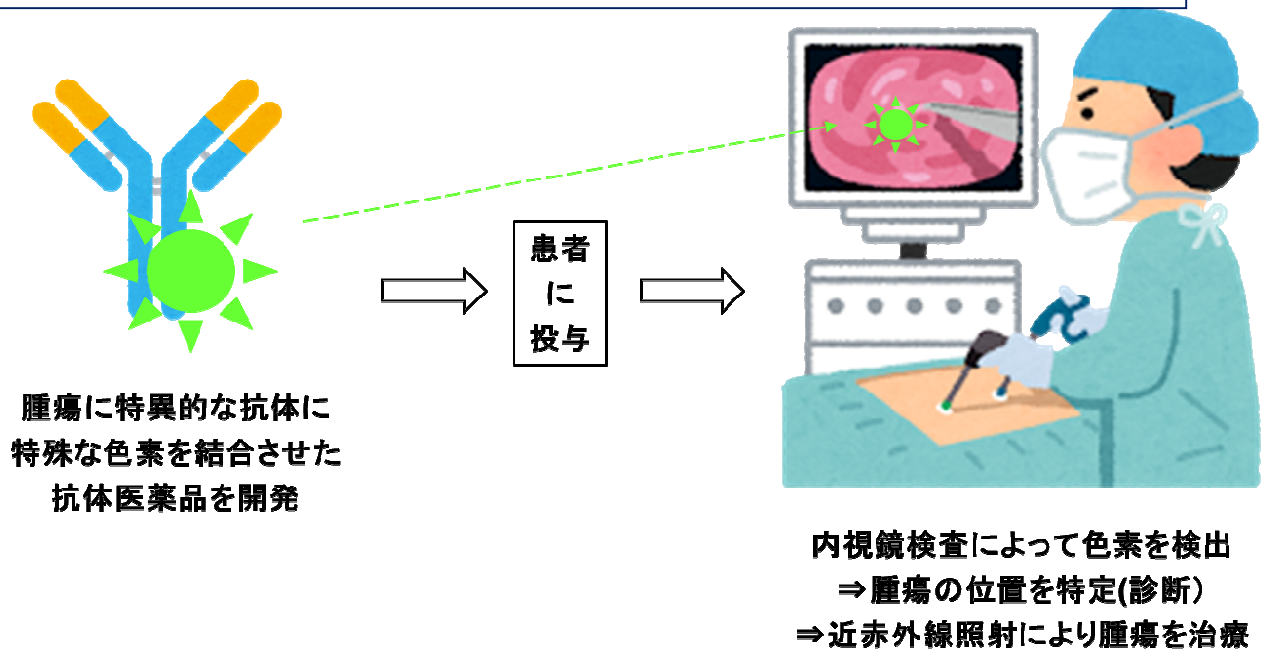
2021年2月16日に合併会社「AI Bio」
(持分法適用会社)を設立

「ABCONTEK社と、ダニ媒介性感染症であるSFTS(重症熱性血小板減少症候群)を治療するための抗体医薬品候補「ACT101」の共同開発について

予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験を一旦中止し、現時点で取得済みの試験結果を用いて早期の導出に注力してまいります(2023年3月14日公表の「連結持分法適用会社株式会社 AIBio の子会社化に関するお知らせ」を参照)。また、SFTSにおける動物用(ネコやイヌ等のペット)体外診断用医薬品について、検討を進めております。

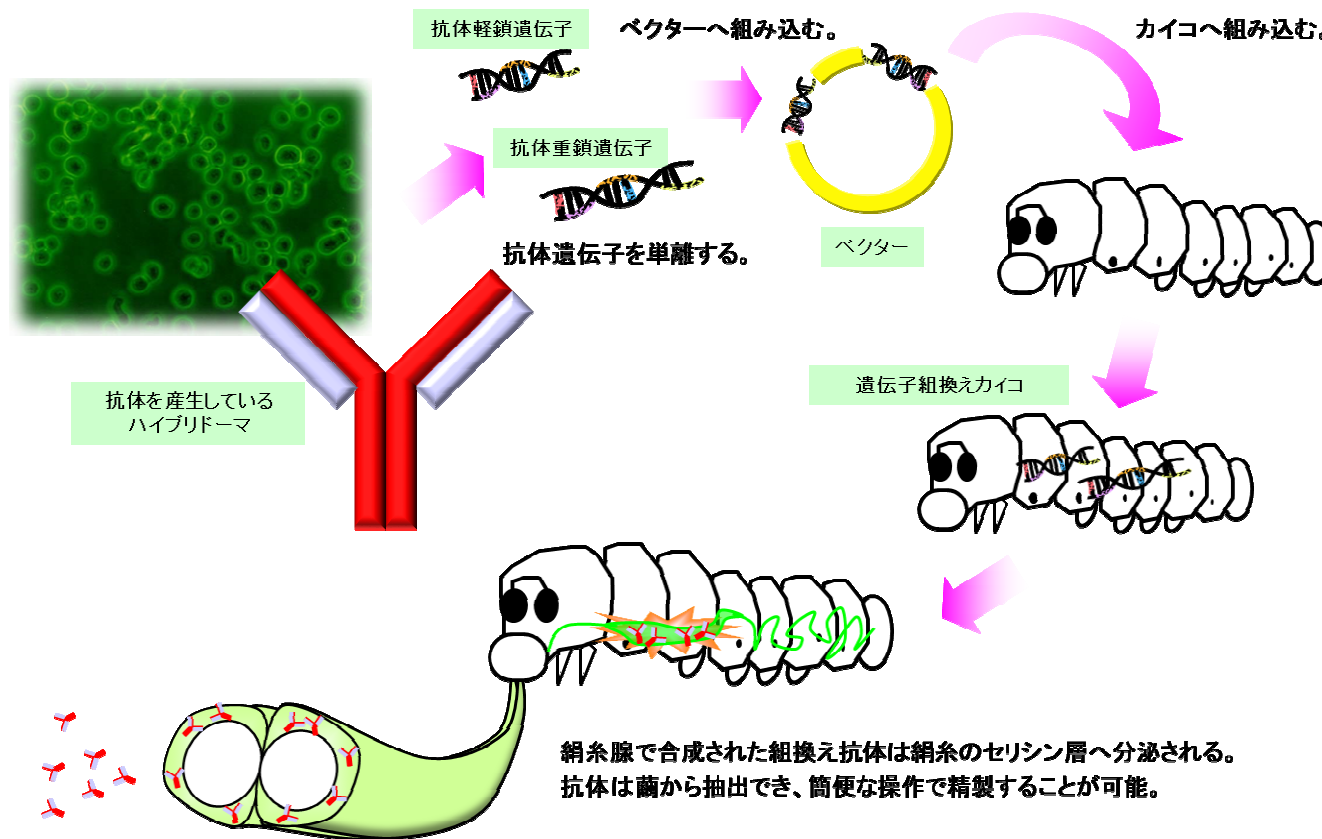
国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる、GIST(消化管間質腫瘍)を診断、治療するための抗体医薬品を研究開発中。製薬企業等への導出等を目指す。

(アップデート)
今後の医薬品シーズ
開発や診断用医薬品
開発について、提携先
と協議を行っております。



◆カイコ繭による抗体やタンパク質の生産・販売

遺伝子組換えカイコにより生産された抗体は、非特異反応が低いことや動物愛護の対象とならない



◆カイコ繭による抗体やタンパク質の生産・販売

遺伝子組換えカイコにより生産された抗体の優位性

①非特異反応が低いこと②動物愛護の対象とならない③生産コストの低減

既存製品ラインナップ

ラミニン 511-E8 (iMatrix-511 Silk)

体外診断用医薬品原料 (大手診断薬メーカーへの原料供給)

Amyloid β 関連抗体 (ELISAキット原料)

新製品

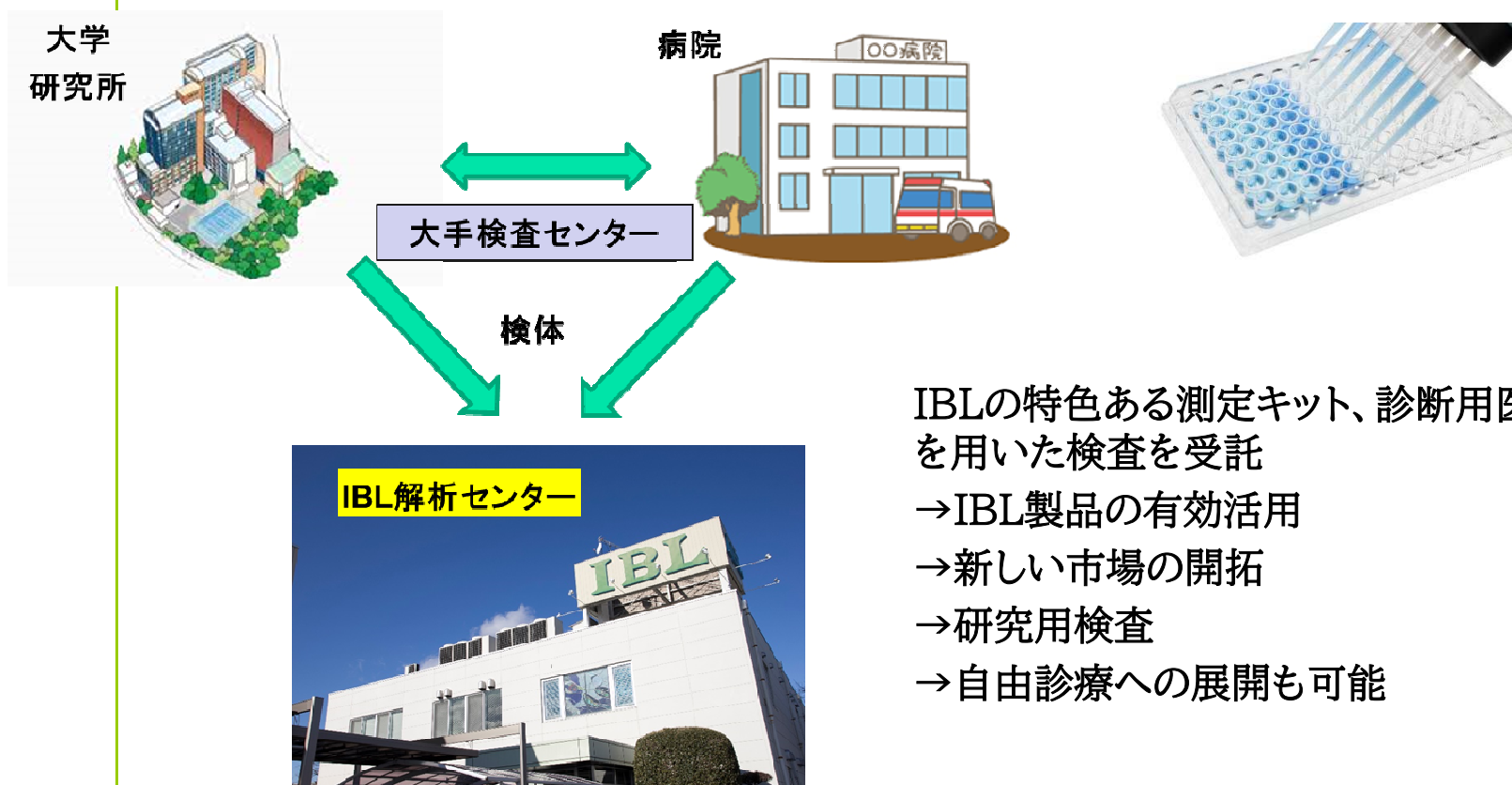
組換えヒトフィブロネクチン

病原体混入のリスクが低いことに加え、機能面でも優れていることが確認できたため、培養細胞の足場材として製品化※2023年3月13日より販売を開始

利益の創出

当該製品群は、今後も生産・製造方法の改良を行い、生産コストの低減をはかり、遺伝子組み換え製品の価値増大を目指す

研究用試薬・体外診断薬の新しい市場開拓のため登録衛生検査所(群馬県 第54号)を開設し、外部からの検体を受入れて検査を実施しています。



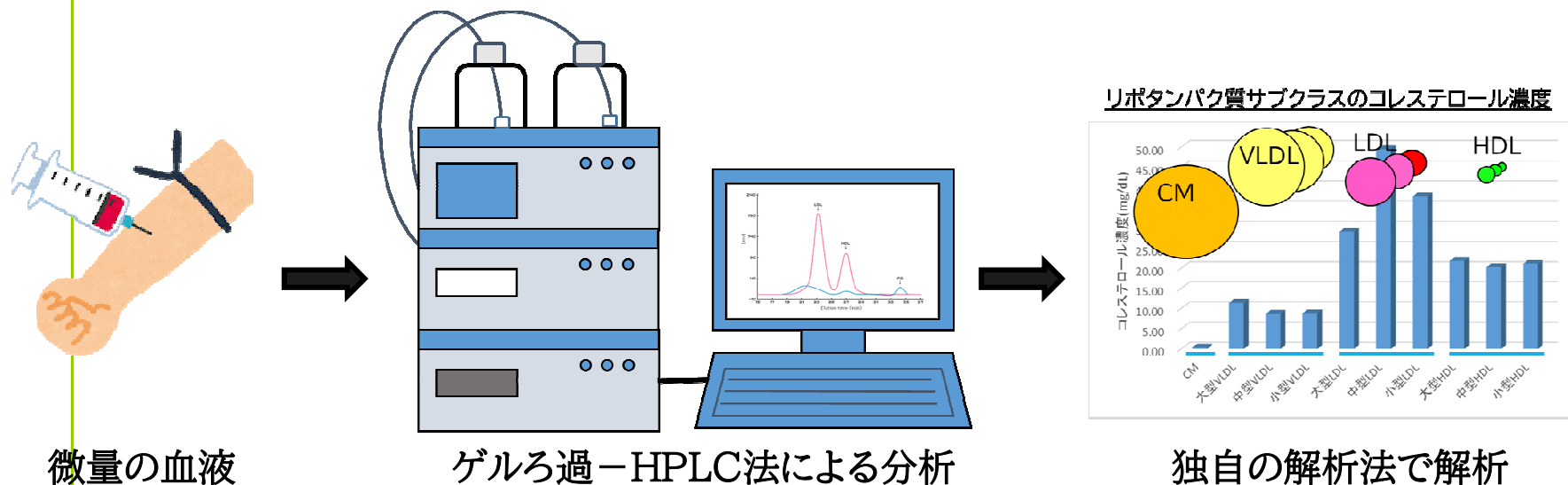
- IBLの特色ある測定キット、診断用医薬品を用いた検査を受託
- IBL製品の有効活用
 - 新しい市場の開拓
 - 研究用検査
 - 自由診療への展開も可能

LipoSEARCHは、悪玉／善玉コレステロール・中性脂肪などを詳細に網羅的にプロファイリングする研究検査サービスです。

脂質代謝研究、脂質代謝関連新薬の非臨床試験、臨床開発試験、機能性食品開発、トクホ試験、などにおいて利用されています。

さらに、リポタンパク質の「粒子数」の分析が可能になり、動脈硬化や心疾患リスクの把握に役立つ、より詳細なデータが取得できるようになりました。

人間ドックなどの自由診療、さらにペットの検査も進めています！

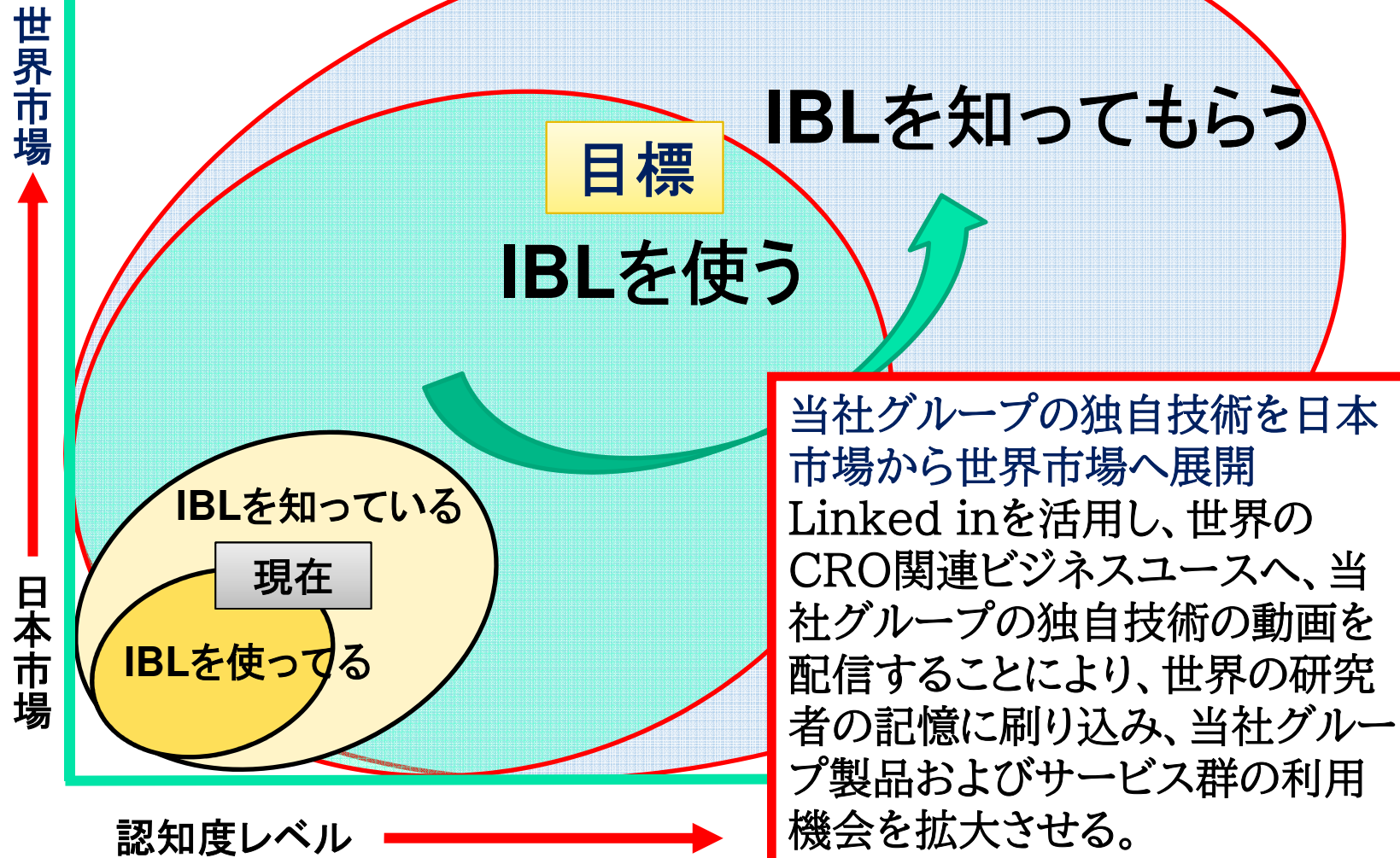


微量の血液

ゲルろ過-HPLC法による分析

独自の解析法で解析

戦略のイメージ



数値目標 抗体関連事業

注1 医薬シーズの導出による収益は含まれていません

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
抗体関連事業(売上高)	588	634	740	840	920
診断試薬サービス	482	503	600	650	700
検査サービス	76	86	100	130	150
※TGカイクサービス	29	44	40	60	70
営業利益	△54	△14	黒字 80	150	200

今回(2023.5.31)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期実	42期予	43期中	44期中
抗体関連事業(売上高)	588	634	790	835	920	1,010
診断試薬サービス	482	503	678	720	780	850
検査サービス	76	86	64	75	90	100
※TGカイクサービス	29	44	47	40	50	60
営業利益	△54	△14	152	87	135	195

1. 41期実績の詳細につきましては、2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照
2. 42期以降の予想は、41期まで別セグメントで報告(P26参照)していた「遺伝子組換えカイク開発事業」における開発コストを抗体関連事業に統合したため、営業利益が減少しております。(2023年4月18日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」を参照)

IBL 目次

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

2023年4月27日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」を参照

- ・遺伝子組換えカイコによる医薬品原料生産に向けた新規開発を中止
- ・抗体関連事業における体外診断用医薬品原料等の開発に集中
- ・「遺伝子組換えカイコ開発事業」は、「抗体関連事業」へ統合

すでに遺伝子組み換えカイコにより製造をおこなっている製品は、今後も、「抗体関連事業」において、製造・販売及び製造方法の改良を継続してまいります。

数値目標 コスト管理を徹底し、研究成果のスピード化を図る

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期予	42期中	43期中
研究開発費	172	95	80	80	80

今回(2023.5.31) 研究項目の選択と集中の徹底

(単位:百万円)	39期実	40期実	41期実	「抗体関連事業」へ統合	
研究開発費	172	95	80		

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

医療レベルからの研究により

本物の「安心と安全」を追求した、こだわりの化粧品

ネオシルク化粧品は、医薬品の研究開発をする「免疫生物研究所」が作った化粧品会社です。

お肌の悩みは女性によってさまざまですが、それを改善し、年齢を重ねても美しくすこやかなお肌でいることは、女性にとって何にもかえがたい輝きだと信じています。

その自信の研究成果の第一弾が「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅠ」です。これまで使用されている異種動物由来のものとはまったく違う新しいコラーゲンです。

是非、今までにない化粧品への感動をあなたのお肌で実感してください。



世界初!®1
先進成分

お肌が安心して受け入れる本物のコラーゲン
「ネオシルク®-ヒトコラーゲンⅠ」
配合の化粧品ブランド

frais vent
フレヴァン

無香料・弱酸性・無着色・
動物由来原料不使用・
アルコールフリー・無鉱物油・
パラベンフリー



ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品 「フレヴァンシリーズ」



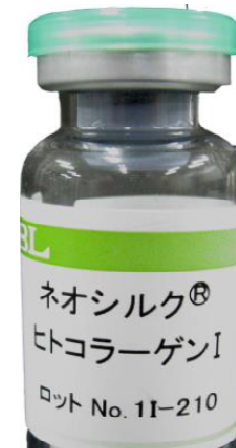
ネオシルク化粧品
neo silk cosmetics

人へ肌へ、正直に。



真実にまっすぐに。

ネオシルク化粧品は、
お肌にとって本当に安全で安心な化粧品で、
たくさんの女性のお肌を美しく、感動を与えます



当社製品は、化粧品原料では世界で初めて、ヒト型のコラーゲンを開発し、従来の動物性コラーゲンとは一線を画しております。

化粧品用原料コラーゲンは、
かつては、ウシの皮膚由来がほとんど

- ・BSE等病原体混入の危険
- ・アレルギーを引き起こす可能性



現在は、魚由来が中心

- ・人に感染する病原体をもたない

**アレルギーの問題は
未解決**

(むしろ問題は大きくなったかもしれない)

アレルギーは皮膚から…。

最近の学説では、皮膚から侵入したアレルギーが、アレルギー症状を引き起こすきっかけになることが判っている

医薬品タンパク質は、安全性
の面からヒト型が常識です。

ではなぜ、肌につける化粧品
用原料のコラーゲンは、ヒト型
でなくても良いのでしょうか？



ヒト型コラーゲンを開発

- ヒト型であるため、アレルギー性が低く、安心・安全
- カイコの繭から抽出されるため、動物由来成分を含まない
- 水に溶けやすく、扱いやすいヒト型コラーゲン

遺伝子組換えカイコによるヒト型コラーゲン生産の概要



* カイコで生産したヒト型コラーゲンは三重らせん構造を有しません。
 (魚由来のコラーゲンもヒトの体温では三重らせん構造を維持できない)

シルクから抽出する安全・安心なヒト型コラーゲン
ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ

注目の
ベビーコラーゲン
(Ⅲ型コラーゲン) 誕生

赤ちゃんの肌

I型コラーゲンをサポート

加齢で失われる
Ⅲ型コラーゲン

「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」は、通称ベビーコラーゲンと言われ、赤ちゃんの肌に多く存在し、加齢とともに減少していくといわれる大変貴重な、コラーゲンです。

本製品は、トランスジェニックカイコのマユから精製するため、組換え遺伝子、動物由来タンパク質、および防腐剤等を含みません。

化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を使用した高級化粧品の開発に取り組み、高品質を求めるユーザーに幅広く提供できる製品を開発し、販売拡大を目指す



2024年3月期中
の製品化を目指す

ネオシルク®-ヒト型コラーゲン配合化粧品 「フレヴァンシリーズ」

○国内販売

国内通信販売においては、直接個人ユーザーへの販売から代理店販売に切り替え、販売代理店との情報共有を綿密に行い、販売拡大を目指してまいります。また、群馬県の温泉地において、高級旅館とコラボレーションし、SNSを活用した販売活動を行ってまいります。

○海外販売(中国)

中国市場へのBtoB販売につきましては、依然として直接現地代理人との情報交換が出来ず、目途がついておりませんが、中国への越境ECの構築を行い、販売を開始しております。今後につきましては、SNSを活用して、中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、販路拡大の準備をすすめてまいります。

○海外販売(欧州・その他)

欧州現地代理人は、Eマーケティング(SNS)やAmazonへの出店、さらに国際展示会での展示をおこない、販売網を拡大し売上増加を目指しております。

数値目標

前回(2022.5.30)

(単位:百万円)	39期実績	40期実績	41期予想	42期中計	43期中計
化粧品関連事業(売上高)	14	13	35	50	60
営業利益	△13	△12	3	10	15

今回(2023.5.31)

(単位:百万円)	39期実績	40期実績	41期実	41期中	42期中	43期中
化粧品関連事業(売上高)	14	13	4	15	20	30
営業利益	△13	△12	△13	3	5	10

黒字化

利益の拡大

黒字化

利益の創出

前回の目標数値には、中国市場へのBtoBの販売目標が含まれておりましたが、中国企業との取引において不確実要素が多いため、今回の目標から除外しております。今後は、中国への越境ECの構築を行い、SNSを活用して、中国国内のバイヤーの方々に直接情報発信し、販路拡大の準備をすすめてまいります。また、41期実績の詳細につきましては、2023年5月12日公表の「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」を参照ください。

IBL 目次

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 中期経営計画&事業リスク
- その他

前回(2022.5.30) 数値目標

2023年3月期(41期)～2025年3月期(43期)

(単位:百万円)	38期 (実績)	39期 (実績)	40期 (実績)	41期 (予想)	42期 (中計)	43期 (中計)
売上高 注1	576	602	647	775	890	980
抗体関連事業	563	588	634	740	840	920
化粧品関連事業	12	14	13	35	50	60
営業利益(△損失)	△595	△240	△122	黒字化 3	80	135
抗体関連事業	△300	△54	△14	黒字化 80	150	200
遺伝子組換えカイコ開発事業 (研究開発費)	△240	△172	△95	△80	△80	△80
化粧品関連事業	△53	△13	△12	黒字化 3	10	15
経常利益(△損失) 注2	△678	△310	△243	△95		
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△668	△318	△258	△120		

注1 ①医薬シーズ導出による収益は含まれていない
 ②遺伝子組換えカイコ事業は、開発に集中するため、製造・売上高については、抗体関連事業に集約

注2 持分法による投資損失を含む

今回(2023.5.31) 数値目標

2024年3月期(42期)～2026年3月期(44期)

(単位:百万円)	39期 (実績)	40期 (実績)	41期 (実績)	42期 (予想)	43期 (中計)	44期 (中計)
売上高	602	647	794	850	940	1,040
抗体関連事業	588	634	790	835	920	1,010
化粧品関連事業	14	13	4	15	20	30
営業利益(△損失)	△240	△122	黒字化 58	90	140	205
抗体関連事業	△54	△14	黒字化 152	87	135	195
遺伝子組換えカイコ開発事業 (研究開発費)	△172	△95	△80	「抗体関連事業」へ統合		
化粧品関連事業	△13	△12	△13	黒字化 3	5	10
経常利益(△損失)	△310	△243	△149	90	注1 医薬シーズ導出による収益は含まれていない	
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△318	△258	△289	80	注2 41期実績の詳細につきましては、 2023年5月12日公表の「2023年3 月期 決算短信〔日本基準〕(連 結)」を参照	

新中期経営計画(2023年5月31日策定)について

売上高について

新中期経営計画の売上高は、診断試薬サービスの海外販売や診断薬原料関連の売上高増加が見込めますが、診断試薬サービス以外(検査サービス、TGカイコサービス、化粧品関連事業)の売上高減少を見込んでいるため、前回に比べ、若干の減少となる予想です。

損益について

41期は、営業利益の黒字化を達成し、42期以降については、営業利益および経常利益並びに親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化を目指してまいります。
新中期経営計画においては、あらゆる物品価格やサービス価格等が上昇し、製造コストや販売管理費が増加し、また、人件費につきましても、従業員の生活支援や人材確保・定着やモチベーション向上のために、ベースアップや賞与の増額を予定しており、利益の減少要因となっておりますが、利益率の高い主力自社製品の売上高が大幅に増加することにより、前回中期経営計画に比べ、増加となる予想です。

第3回新株予約権の発行及び権利行使により 調達した資金の実施状況

単位:百万円

課題	具体的な資金使途	金額	支出予定時期	2022.3時点 の実施状況
①	(完了) 医薬品原料の生産管理をするためのノウハウや人材の確保および医薬品原料の製造工場の設計資金	200	2017年1月 ～2018年12月	完了
	(完了) TGカイコ大量飼育に関わる機械装置及び設備の設計及び購入資金	300	2018年10月 ～2021年3月	完了
②	当社グループの事業資金	350	2020年7月 ～2022年3月	完了
⑤	遺伝子組換えカイコ事業を軌道に乗せるための人材確保やノウハウ獲得資金	200	2020年4月 ～2023年3月	完了
⑥	あらたな医薬品シーズの研究開発資金	200	2020年10月 ～2023年9月	完了
⑦	<u>体外診断用医薬品や体外診断用医薬品原料の開発</u>	350	<u>2023年4月</u> <u>～2025年3月</u>	—
	合 計	1,600		

主要な事業リスク及びその対応策は、以下のとおりです。

遺伝子組換えカイコ事業への投資について

当社グループは、遺伝子組換えカイコ事業に対し、**上市された製品の製造方法等の改良を継続的に実施していく方針ですが、製造コストの高騰や当事業を軌道に乗せるための改良において、現状確立されたノウハウが不十分な状況です。**

当事業においては、研究開発費を先行投資することになりますが、研究開発の成否リスクが高い反面、短期間での収益が保障されるものではないため、取り組んでいる研究開発が遅れたり、中断する可能性があります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	中期
影響度	小

長期間多大なコストが発生する医薬品原料生産の研究開発は中止し、診断薬原料や試薬関連の製造方法の改良における、開発目標やコストを徹底的に管理いたします。また、PDCAを実行することにより、リスクの発生を早期に発見、検討し、経営判断のスピード化を図ってまいります。

他社との業務提携、合弁会社設立等について

当社グループは、戦略を実行していく上で、合弁企業の設立や子会社化(持分法適用会社化を含む)を行うなど、他社の買収やその他の株式投資を行う可能性があります。

当社グループの業務提携先や合弁先に対して当社グループが支配権を有するとは限らず、これらの会社が、当社グループの意向にかかわらず、事業戦略を大幅に変更する可能性があります。さらに、当社グループの持株比率が低下したり、その経営成績や財政状態が大幅に悪化する可能性もあります。これらの場合、その業務提携、合弁事業などが期待通りの成果を生まない可能性や、継続が困難となる可能性があります。また、特定の第三者との業務提携や合弁事業などを実施したことにより、他の者との業務提携や合弁事業などが制約される可能性もあります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	常時
影響度	中

各投資の実行の検討に際し、リスクの大きさに応じ、必要十分なデューディリジェンスを実施した上で、定められた承認プロセスを経て投資判断を行っております。また、業務提携先や合弁先との契約において、出来る限り当社のリスクを排除し、コミュニケーションを駆使し業務提携先や合弁先の情報収集に努めるなど、トラブルを回避するための措置を講じて参ります。

医薬品シーズ開発における進捗について

当社は、社外との連携を構築することにより効率的な研究開発を進めております。しかしながら、当初計画したとおりの研究開発の結果が得られない場合や計画の遅延、中止が生じる可能性があります。

研究開発が計画どおりに進捗しない場合には、当社グループの業績及び財務状況が影響を受ける可能性があります。

リスク対応策

顕在化の可能性	中
顕在化の時期	常時
影響度	中

当社は、このような事態を極力回避するため、進捗管理や評価をおこない開発内容の優先順位や研究開発資源の変更、あるいは、研究開発の一時中止の決定などの対応を行っております。

※その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」を参照ください。

また、前回記載していた「のれんの減損損失のリスク」につきましては、前会計年度において、計上していたすべての「のれん」を減損したため、リスク要因から削除いたしました。(2023年4月27日公表の「営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」を参照)

- 会社概要
- 抗体関連事業
- 遺伝子組換えカイコ開発事業
- 化粧品関連事業
- 新中期経営計画&事業リスク
- その他

今後の開示について

当資料は、本決算発表の時期(2024年5月)を目途として更新し、開示を行う予定です。
また、その他変動が生じた場合など、本資料に重要な影響を与える場合は、速やかに開示を行う予定です。

注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。